# 令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 新和 小学校 ）　　学校番号　０９２

【様式】

| 目指す学校像 | みんなでつくる　みんなの学校　～児童・教職員・保護者・地域のすべての人の笑顔のために～ |
|---|---|

| 重点目標 | |
|---|---|
| | １　学びの自律化に向けた一人１台端末の活用と、協働的な学びを生み出す探求的な学習の充実<br>２　安全・安心な環境整備と、実践的な安全教育の実施<br>３　地域とともにある学校づくりの推進<br>４　学びの自律化を促すための「アクティブ・ラーニング」型授業の推進 |

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 達成度 | | | |
|---|---|---|---|
| | A | ほぼ達成 | （８割以上） |
| | B | 概ね達成 | （６割以上） |
| | C | 変化の兆し | （４割以上） |
| | D | 不十分 | （４割未満） |

| 学校自己評価 | | | | | | | | 学校運営協議会による評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度目標 | | | | | 年度評価 | | | 実施日令和５年２月１６日 |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1<br>学力向上 | ＜現状＞<br>○全ての教員が一人１台端末を利用した授業を実践し、双方向の通信を取り入れた授業を行うことができるが、その内容は教員間で差がある。<br>○本市においてＲ４年度から３年生以上で、探求的な学習「スティームス・タイム」(年 6 時間)及び「プログラミング学習」(年 3 時間)が始まる。<br>＜課題＞<br>▼授業における ICT の活用や、子どもが主体的に取り組む授業の実施状況は、教員間におけるばらつきがある。教員一人ひとりの指導力を高めるとともに、チームとして組織的な指導体制の構築が必要である。<br>▼子どもが安全にインターネットを利用できるよう、情報モラル教育を計画的に行う必要がある。<br>▼自宅での使用においては家庭の協力も必要である。（ﾈｯﾄ環境の整備、使用状況の見守り等） | 学びの自律化や個別最適な学びを促すための「新和小ＧＩＧＡスクール構想の推進」 | ①タブレット型 PC を効果的に活用する授業改善のための教職員研修<br>②「プログラミング教育授業」の開始に伴い、１～６年生の段階に即した指導計画の作成と見直し。<br>③「情報モラル教育」の指導計画の見直しと改善<br>④タブレットを活用した授業を年に１回以上ずつ公開・参観し、教員の授業力を高める。 | ①エバンジェリストを中心とした月１回の研修を実施できたか。<br>①児童が学年相応のデジタル教材を自由に扱えるようになったか。(7 月まで)<br>②「プログラミング教育授業」の指導計画作成、実施後すぐに見直したか。<br>③「情報モラル教育」も実施後すぐに見直したか。<br>④児童の授業アンケートにおける ICT に関する「授業スキル（因子③）」が、第２回調査で令和３年度(17.7)を上回ったか。 | ○学年に応じた利用の仕方（技能、情報モラル等）について共通理解の下、全校で進めた。その結果、全ての学年の児童がタブレット型 PC を使って、学年相応の活用をすることができるようになった。しかし、市内全体の取組と比較すると不十分と思われる。<br>○児童の授業ｱﾝｹｰﾄにおける ICT に関する「授業ｽｷﾙ（因子③）」の結果は 17.3 ﾎﾟｲﾝﾄだった。目標とした前年度の同時期値(17.7)には達しなかったが、本年度の市平均(17.32)を超えることができた。 | B | 学力向上には、学習指導要領に示されている「個別最適な学び」と「協働的な学び」が欠かせない。ICT の活用を図りながら、さらに多面的に取り組んでいく。<br>○授業における ICT の効果的な活用<br>○国・市の学習状況調査結果の分析・活用（学力向上ポートフォリオ）<br>○「にいわ支援教室（ＮＳＫ）」<br>○小・中一貫教育の推進（新和地区としての学力向上）<br>○さいたま市「教科担任制」全校導入 | ・子どもたちがタブレット PC を使えるようになった様子が伺える。今後は、活用方法にも工夫をしてほしい。<br>・学力向上に向けて学校が努力していることは分かるが、子どもたちや家庭に浸透していない部分もあるように見受けられる。次年度はそのあたりに注力してはどうか。<br>・子どもたちがワクワクし、向上心を掻き立てるようなアイデアなども期待したい。 |
| | | 正解のない課題を解決するための資質・能力を身に付けさせるための「総合的な学習の時間の充実」 | ①多様な他者との協働場面をつくるため、令和４年度から開始する「スティームス・タイム（探求的な学習）」は２学年合同で取り組み、実施後、年間指導計画の見直しを行う。<br>② 校内研修と連動させ、SDG s を関連付けた探求的な学びを創り出す。 | ①「スティームス・タイム」を２学年合同で行えたか。<br>①「スティームス・タイム」の年間指導計画の見直しを行ったか。（実施後）<br>②「SDG s ＰＲシート」で報告することができたか。（第3･4･5･6 学年） | ３年生以上で取り組む「総合的な学習の時間」は各自ﾃｰﾏを決め、探求型の学習をする。<br>①そのうちの「ｽﾃｨｰﾑｽ･ﾀｲﾑ」は２学年合同で行い、普段と異なる仲間や教員と学んだ。内容を見直し、３月には令和５年度計画を完成させる。②SDGs に視点を置いた授業研究を行った。２月には「SDG s PR ｼｰﾄ」を完成させる。 | A | 「個別最適な学び」の場の一つとして、「スティームス・タイム」は２学年合同で行う。令和 5 年度は「2 年間の 2 年目」として実施し、指導計画を完成させる。（その後、適宜見直し） | |
| 2<br>安心・安全 | ＜現状＞<br>○新型コロナウイルス感染症対策に努めているが、Ｒ３年度は１学級全員を濃厚接触者にしてしまった。<br>○日々の健康観察や安全指導、月１回以上の施設点検を行い、Ｒ３年度は救急車を要請するような重大事故は起こっていない。<br>○PTA や地域の協力をいただき、登下校の事故はない。<br>＜課題＞<br>▼児童が自身の安全を守るために主体的な行動ができるようにしたい。<br>▼想定を超える災害が起こり得る状況において、様々な防災教育が必要と考える。 | 「学校における新しい生活様式」の徹底と教育活動の充実 | ①濃厚接触者を出さない生活について全職員で定期的に確認する。<br>②児童が、自身の健康・安全に関心をもてるよう保健指導を月１回以上行う。<br>③月１回の施設点検後、１週間以内に改善する。<br>④理科や家庭科等の危険を伴う実習は、事前の準備を入念に行う。また、安全な行い方を児童へ指導する。 | ① 濃厚接触者はなかったか。<br>② ③④ 救急車を要請するような重大事故はなかったか。 | 実習系の学習（歌唱、楽器演奏、調理実習、体育、学校行事等）も、感染対策をしながら工夫して、おおむね実施できている。<br>①濃厚接触者の判断はないものの、9 月及び 12 月に学級閉鎖を行った。その結果、学級を超える感染の広がりは認められない。<br>②③④授業に伴う安全指導、施設管理、登下校指導等に努めた。1 月末現在まで、救急車を要請する重大事故は起こっていない。 | A | 国や市教育委員会の指示の下、引き続き、感染状況を見ながら教育活動の充実を図る。<br>不審者情報の多い中、登下校の安全は必須である。学校運営委員会を窓口に、ＰＴＡや地域と協力しながら安全な地域づくりに取り組んでいく。 | ・新型コロナ感染防止に対する先生方の努力には頭が下がる。今後も、国などの動向に合わせて取り組んでほしい。<br>・交通事故防止に対する地域の協力は継続していくことで子どもたちを守りたい。学校でも安全指導を続けてほしい。 |
| | | 実践的な防災教育の実施 | ①各種避難訓練に関する年間計画を見直す。（不審者対応訓練の導入と系統的な避難訓練の実施）<br>②学校運営協議会やチャレンジスクールと連携し、児童が地域避難訓練に参加する。 | ①「不審者対応訓練」を行えたか。「避難訓練」について系統立てた見直しができたか。<br>②避難場所運営訓練に児童が参加できたか。 | ①不審者対応訓練はできなかったが、防犯グッズの校内配置を見直した。<br>②避難場所運営訓練は感染予防のため、地域住民のみで行った。学校運営協議会では安全に関する熟議を継続して行っていく。 | B | 令和５年７月からリフレッシュ工事が始まるので、工事期間の避難の仕方を早期(4 月中)に示す。また、体育館は使用できなくなるので、「地域の避難場所」としての役割についても学校運営協議会で話題にしたい。 | |
| 3<br>開かれた学校 | ＜現状＞<br>○地域とともにある学校づくりをいっそう推進させるため、Ｒ４年度の学校教育目標を改めた。<br>○「目指す学校像」の具現化を図るため、保護者や地域の方の学びの機会を積極的に設定する。<br>○Ｒ３年度に学校運営協議会を設置し、ｺﾛﾅ禍の学校・家庭・地域の役割について熟議した。<br>＜課題＞<br>▼学校運営協議会をいっそう充実させ、地域とともにある学校づくりを進めていく。<br>▼通学特定地域において本校入学者数が減少傾向にある。 | 学校が地域の核となるための「保護者や地域の方とともに学ぶ学校づくり」 | ①学習ボランティアの募集の継続<br>②地域学校保健委員会の開催<br>③保護者の学校図書館利用開始<br>④就学予定児とその保護者へのｱﾌﾟﾛｰﾁ(運動会案内、学校説明会、子育て講座) | ①Ｒ３年度と同等以上の協力を得られたか。<br>② 当該委員会を開催したか。適切に周知し、校外からの参加を得られたか。<br>③ 適切に周知し、利用されたか。<br>④ 計画どおり実施できたか。 | ①昨年度のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ(習字、ﾐｼﾝ)の継続ができなかったが、新たなﾎﾞﾗﾝﾃｨｱを募集できた(ﾌﾟｰﾙ、飼育)。その他、地域保育園との交流が始まった。②初めて地域参加型の委員会を開催できた。地域から７名の参加を得た。③12 月は１名の利用。２月も実施の予定。④計画どおり実施できた。 | A | 第 3 回学校運営協議会で熟議した内容について、安心・安全な地域づくりのために、学校・保護者・地域が協働する。 | ・学校図書館を地域に開放したことはとても良いことだ。是非、継続的にお願いしたい。<br>・地域学校保健委員会の取組もとても良い。今後も継続し、家庭等との連携をより密にしてほしい。<br>・広報は、適時、適切になされている。 |
| | | 学校・保護者・地域をつなげる「学校運営協議会の充実」 | ①熟議を充実させるため、会議の１週間前には委員に資料を配付する。<br>②協議内容を地域全体で共有できるよう、会議の概要を通信にして回覧し、学校 WEｂﾍﾟｰｼﾞで公開する。 | ①充実した熟議ができたか。（委員による評価）<br>②保護者ｱﾝｹｰﾄで「よい連携」で肯定的回答 95%以上を得る。（R2:91%、R3:98%） | ①熟議のﾃｰﾏは年間を通して設定し、段階的に熟議を深めていくようにした。事前の資料配付に努めた。<br>②保護者ｱﾝｹｰﾄ「学校･保護者･地域の役割分担」で 96%が肯定的に回答（うち「よくあてはまる」は昨年度より８ﾎﾟｲﾝﾄ増） | A | 学校運営に参画する組織として、更なる充実のためにいっそうの工夫が必要である。学校運営協議会の運営計画や委員の拡充を新たに行い、より充実した熟議ができるようにしていく。 | |
| 4<br>教職員の資質向上 | ＜現状＞<br>○子どもが主体的・対話的に学習し、深い学びを得られるよう、「アクティブ・ラーニング」型の授業を実践している。令和３年度の児童の授業アンケートでは、本校の「アクティブ・ラーニング」型授業に関する評価は、市平均値よりも上回った(1.0ﾎﾟｲﾝﾄ差)。<br>○学びの手ごたえを子ども自身に確認させるため、授業の最後に「ふり返り」の時間を確保している。令和３年度では、授業担当者 11 名全員が「実施に努めた」と回答している。<br>（「よく努めた」2 名、「だいたいよく」9 名）<br>＜課題＞<br>▼学校全体の教育力を高めるため、教員個人の授業力を高めたい。 | 児童が意欲をもって主体的・自主的に取り組める「アクティブ・ラーニング」型授業の展開 | ①各教員の授業力を高めるため、全教員が学期１回以上の授業公開と年１回以上の授業参観を行う。<br>②「アクティブ・ラーニング」型授業を充実させるための「めあて」の明確化と「ふり返り」の時間の確保 | ①全教員が、学期１回以上の授業公開と年１回以上の授業参観ができたか。<br>①児童の授業アンケートで「アクティブ・ラーニング」型授業に関する質問に一定の評価が得られたか。（前年度との比較、市平均との比較、個人内での比較等）<br>②教員アンケートで「『ふり返り』の実施」に全員が肯定的に回答したか。<br>②児童の「ふり返り」の内容から「児童一人ひとりが学びの手ごたえを感じている」と評価できるか。 | ①全教員が他校の先進的な授業を参観し、自身も授業を公開して指導力の向上に努めた。児童の授業ｱﾝｹｰﾄでは、「ｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞ」型授業に関する評価は市平均値より 1.1ﾎﾟｲﾝﾄ上回った（昨年度は 1.0ﾎﾟｲﾝﾄ）。<br>②11 名全ての教員が、「学びの振り返り活動」の実施に努めていると回答した。<br>（「よく努めた」3 名、「だいたいよく」8 名）<br>しかし、学習指導要領で示されている学びの姿に近づくためには、更なる研鑽が必要である。 | A | 本校の研修主任教員を中心として、教員一人ひとりが学びを実感できる研修方法の工夫・改善を図る。<br>○令和４年度から始めた「教科横断的な学び」の研修を総括する。 | ・教職員一人ひとりがその個性に応じて力を伸ばしていってほしい。<br>・一人の向上も大切だが、チームワークで子どもを成長させることにも注力したい。 |